

2025年度 すくわくプログラム ポピンズナーサリースクール馬込 【6月】活動報告書

【活動テーマ/テーマ設定背景】

●テーマ：ブラジルの壁面製作

●設定背景：先月のワールドツアーズでブラジルの文化について知ってから、世界の国ぐに興味を広がっている様子が見られた。出席確認で名前を呼ばれるとブラジル語で挨拶したり、世界についての絵本を友だちと一緒に見てブラジルの有名なものクイズを出し合ったりしていた。お子様の興味関心をより深くする方法はないか、ブラジルの世界観を味わうことができないかと思い、国旗や有名なセラロン階段などの製作を設定した。

【活動のために準備した素材や道具、環境の設定】

【用意したもの】

模造紙、絵の具、クレヨン、国旗本、セラロン階段の写真

【活動内容/お子さまの声や姿や保育者との関わり】

・ブラジルの国旗は、鉛筆で保育者が下書きしたものに色塗りをしていた。国旗本を見ながら何色の絵の具が必要か話し合った。「きみどりじゃなくて、みどりだよ」「まるのところにしるいほしがあるから、そこにはぬらないで」などと、友だちと相談しながら色を塗る姿が見られた。完成すると「ほかのくにのこっきもつくりたい」と保育者に伝えていた。

・セラロン階段はグループに分かれて製作した。写真を見ながら、模様をどうするか、何色にするかなど、相談しながら進めていった。階段一つひとつの模様が違うことに気づき、「これはえいごがかいてない?」「れんがみたいなのよだね」などと、真剣に話し合う姿が見られた。その後はクレヨンで模様を描き、絵の具を塗ってはじき絵の技法を取り入れた。

・後日、保育室に国旗とセラロン階段を飾った。保育者がどこに飾るか問いかけると、「かいだんのうえにこっきをはれば、ぶらじるのものってわかるんじゃない」という声が聞こえてきた。セラロン階段はリオデジャネイロにあるということを理解しており、「さんばのところだよ」と、ワールドツアーズで学んだことと結びついている様子であった。また、他クラスの友だちが「なにこれ」とやってくると、説明する姿も見られた。



【振り返りをふまえた気づき】

ワールドツアーズに参加したことにより、お子様の世界観が広がっているように感じた。以前はあまり興味を示さなかった世界に関する絵本や国旗本は、今では人気になり、友だちと一緒に見て話し合う姿が見られる。幼少期において、お子様の興味関心から、選択肢の幅を広げてあげることは大切だということを改めて確認できた。ブラジルについてもっと知りたいというお子様の姿から製作を設定したが、保育者が全て考えるのではなく、本物をイメージし、友だちと相談しながら自分たちで決めていく活動は、思考力の芽生えや協同性につながっていくと感じた。すくわくプログラムを通して話し合う時間を増やし、一人ひとりの気づきや意見を尊重していきたい。また、より世界について知りたいという感情が芽生えてきているため、今後のワールドツアーズはもちろん、外国人講師を呼び、国際感覚の育成につなげていく。